

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県南会場＞

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 障がいのある子どもの尊厳が守られる権利を尊重することと適切な支援をすることによって社会参加が可能となるといった支援の考え方や、平等と公正は異なり各々に応じた配慮が必要である旨を理解しました。また、発達障がいの種類と対応例を具体的に学び、否定するのではなく自己肯定感を高めるような接し方を意識したいと思いました。それは障がいの認定の有無にかかわらず心掛けたい事であり、子どもたち一人ひとりに同様に目を向けていきたいと思いました。
- ◆ 他の研修でも障がいのある子どもについて学んだが、今回は支援学校の先生からさらに専門的な内容を学ぶことができた。障がいは種類こそあるものの、対応の仕方は共通していると感じた。指示は具体的にすること、情報を視覚的に確認できるようにすること、成功体験を増やして自信をもてるようにすることなど、基本的なことであるが忘れがちになってしまふことを意識して行うことで、子どもが過ごしやすい場所作りができると思う。
- ◆ 障がいに種類があり、身体障がい、知的障がい、精神障がいはそれぞれの特性があり異なることを理解しました。発達の遅れがある子どもが孤立しているとき、絵、写真、文字を使って視覚的にわかりやすく提示し、活動内容をわかりやすく伝えたり、子どもが安心して活動に参加できたりするようにサポートしたいと思いました。障がいのある子どもだけでなく、周りの子どもたちにも障がいについて理解を深める機会を提供することが大切だと思いました。
- ◆ すべての子どもたちが安心して過ごせる場所であるために、障がいのある子どもも同様に時間を楽しく有意義に過ごせるようにすることがとても大事だと思いました。一人ひとりの子どもをよく見ること、知ることでその子の困りごとを共有し、理解し、本人と一緒に考え、その子にあった支援を行うことが必要だと学びました。また、話を聞く際は、否定し正すのではなく、心情に配慮し言葉を補う対応を心掛けていきたいと思います。子どもの気持ちを受け止め満たしてあげる対応を常に実践していきたいと思います。
- ◆ 障がいのある子どもに対して、適切な支援を受けている子、受けていない子によって周囲の理解と支援（環境）が変わることを学びました。また、子どもの早い時期から適切な支援を行うことが将来の自立につながる重要なことであることも理解しました。子どもたちと理解を深める遊びとしてテレパシーゲームを教えていただき、お互いの心が通じ合う遊びを体験し、障がいのある子どもの理解に職員同士で情報交換、共有していきます。